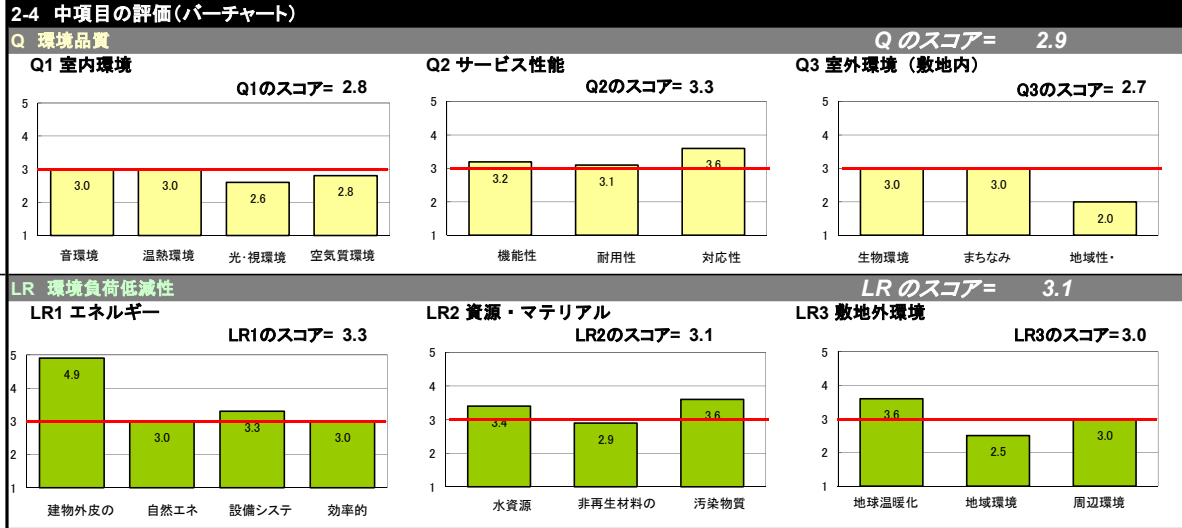
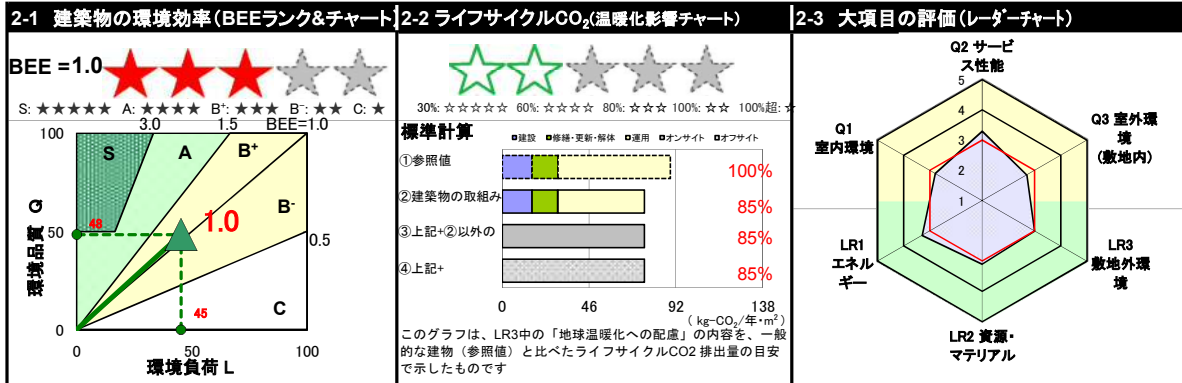


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本スタッドウェルディング株式会社新築計画	階数	地上2F
建設地	愛知県安城市北山崎町柳原13-1	構造	S造
用途地域	都市計画区域	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	事務所工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年4月 予定	評価の実施日	2018年2月22日
敷地面積	5,210.38 m ²	作成者	保坂 逢里
建築面積	2,959.04 m ²	確認日	2018年2月22日
延床面積	4,623.93 m ²	確認者	須田 敏明



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p>7.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														2.9	
Q1 室内環境														2.8	
1 音環境															
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ソーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														2.6	
3.1 昼光利用														1.8	
1 昼光率														1.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														2.8	
4.1 発生源対策														3.0	
1 化学汚染物質														3.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														2.0	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														1.0	
Q2 サービス性能														3.3	
1 機能性														3.2	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.6	
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														4.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.4	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														5.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														5.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

3 対応性・更新性				3.6	0.29		-	3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31		-	
1 階高のゆとり			4.45m	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ			238.79/2491.44=0.096	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38		-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22		-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37		-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.1
LR1 エネルギー					0.40		-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm:0.81	4.9	0.10		-	4.9
2 自然エネルギー利用				3.0	0.25		-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm:0.77	3.3	0.39		-	3.3
4 効率的運用				3.0	0.26		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-	-		-	
4.1 モニタリング				-	-		-	
4.2 運用管理体制				-	-		-	
LR2 資源・マテリアル					0.30		-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水			節水型便器	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63		-	2.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			グラスウール	5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	95パーセント	3.6	0.33		-	3.6
2 地域環境への配慮				2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		独自	充分な敷地を有している	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音		独自		3.0	0.33		-	
2 振動		独自		3.0	0.33		-	
3 悪臭				3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-	-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

日本スタッドウェルディング㈱中部支社新築計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11	外構緑化:7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 日本スタッドウェルディング

計画上の配慮事項	
総合	利用者が利用しやすいよう、十分な駐車場・利用スペースを設けている。
Q1 室内環境	各階に空調機が設置されており、室内環境を整えている。
Q2 サービス性能	利用者が過ごしやすいよう十分な利用スペースを設けている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内緑地計画を行っている。
LR1 エネルギー	省エネ基準に適合するよう設備機器等配慮している。
LR2 資源・マテリアル	断熱材にグラスウールを使用している。
LR3 敷地外環境	敷地内に十分な駐車スペースを設けている。
その他	特になし。